

外来植物の防除に関する意向調査 — 長野県内市町村の事例 —

前河正昭¹

外来植物の防除推進の施策を検討するために、市町村自治体を対象に、県内でどのような外来植物の防除がなされているのか、特定外来生物の防除に対してどのような意向かを把握するためのアンケート調査を平成22年に実施した。その結果、特定外来生物（アレチウリ *Sicyos angulatus* を除く植物）の防除は、オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* が7つの自治体で、オオハンゴンソウ *Rudbeckia laciniata*、オオカワヂシャ *Veronica anagallis-aquatica* がそれぞれ2つの自治体で防除が行われていたことがわかった。また、特定外来生物以外の外来植物の防除は、ニセアカシア *Robinia pseudoacacia* が11の自治体で、セイタカアワダチソウ *Canada goldenrod*、ハルザキヤマガラシ *Barbarea vulgaris* がそれぞれ4つの自治体で防除実績があることがわかった。

特定外来生物の防除の意向については、県がリーダーシップをとり特定外来生物の防除の推進をするのであれば市町村としても協力すると答えた自治体が54%を占めた。オオキンケイギク、オオハンゴンソウ等の防除の意向については、「県が防除を推進するとすれば、市町村はどの程度協力していただけるか」の問いに、「可能な範囲で協力したい」との回答が75%と多数を占めた。

キーワード：特定外来生物，外来植物，防除，意向調査，長野県

1. はじめに

2004年に施行された「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（以下、外来生物法と呼ぶ）では、維管束植物で12種の特定外来生物が指定されている¹⁾。

長野県における特定外来生物（植物）として、アレチウリ *Sicyos angulatus*、オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata*、オオハンゴンソウ *Rudbeckia laciniata*、オオカワヂシャ *Veronica anagallis-aquatica* の4種の自生が確認されており、特に前者3種は県内に広く分布していることが認められる²⁾。アレチウリは各地で防除が行われている。しかし、オオキンケイギクやオオハンゴンソウ（ヤエザキオオハンゴンソウ *R. laciniata* var. *hortensis* を含む）は、長野市を中心とした北信地域の調査で、民家の庭、畑、道路周辺など、人間の生活空間を中心に多く生育していることが確認されており、特定外来生物と認識されないまま栽培されていると思われる事例も多く認められた³⁾。今後、このような外来植物の防除を進めるうえで、国や地方自治体のような公的機関による普及啓発や計画的な防除対策が必要と考えられる。

特定外来生物法に基づいて定められた特定外来生物被害防止基本方針では、防除の実施に関する事項として、国、地方自治体、民間団体、土地の所有者・管理者等の関係者が連携して計画的に防除を進めることが必要であることが記載されている⁴⁾。また、2008年に施行された生物多様性基本法では、国の施策として、外来生物による被害防止が掲げられており、地方自治体でも国の施策に準じて生物の多様性保全に関する施策を総合的・計画的に推進を図るとされている⁵⁾。したがって、国や地方自治体では特定外来生物を含めた侵略的な外来植物の防除を効率的に行う施策を具体化する必要が高まっていると言える。

そこで、地方自治体として、これらの特定外来生物（植物）や、地域で問題となっている外来植物の防除をどのように推進していくかを検討するために、市町村自治体の担当者を対象にアンケートを実施したので、その結果を報告する。

2. 調査方法

長野県内市町村の環境保全や外来種対策の担当課をアンケート調査の対象とした。電子メールで付表

1 長野県環境保全研究所 自然環境部 〒381-0075 長野市北郷 2054-120

1に示すアンケート票を送付し、担当者に回答を依頼した。

質問事項は次の5つの観点で作成した。

- (1) 特定外来生物の植物の指定種について防除活動が行われている事例があるか。
- (2) 特定外来生物の植物種の防除について、どの程度の必要性を感じているか。
- (3) 自治体としてオオキンケイギク、オオハングソウ等の防除の推進をどの程度できるか。
- (4) 特定外来生物以外の外来植物の防除事例が当該自治体内でどの程度あるか。
- (5) 外来植物の防除の施策等に関して、県や環境保全研究所に対して意見、要望などはあるか。

ただし、設問では、アレチウリの防除活動が、既にほぼ全県的に取り組まれており、県の水大気環境課によって防除実績が集計されているため、アレチウリのみの防除については記入不要とした。

アンケートの回答期間は6月30日から7月31日までの1ヶ月間とした。しかし当初に設定した期間内でのアンケートの回収率が低かったため、電話

等での依頼を再度行い、9月7日まで回答を求めた。最終的には、1市1村を除く市町村から回答を得ることができ、アンケートの回収率は97.4%となった。

3. 結果

3.1 特定外来生物の防除実績

特定外来生物の植物種の防除実績の有無は、防除実績のある市町村が19%、ない市町村が61%で、残りの20%は防除実績が不明であった。

県内の特定外来生物（植物）の防除実績として表1に示す情報が得られた。オオキンケイギクは東御市、木島平村、安曇野市、松本市、塩尻市、池田町、箕輪町で、オオハングソウは原村、辰野町で、オオカワヂシャは上田市、安曇野市でそれぞれ近年に防除が行われていることがわかった。

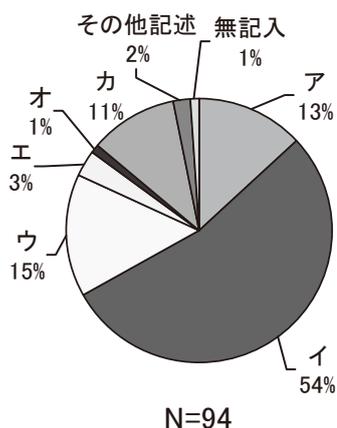
また、アンケートではアレチウリの防除実績の報告は求めなかったが、飯山市、生坂村、小川村、松川町からはアレチウリの防除実績の情報も得られた。

表1 特定外来生物（植物）の防除事例

id	市町村名	防除対象種（複数記入）	防除年代		時期	主な防除地域	防除場所の環境（河川敷、休耕地など土地利用を記入）	備考、作業団体名等
			年から	年まで	月頃			
1	安曇野市	オオキンケイギク	2009	2010	6月	穂高川右岸早春賦碑周辺	堤防道路脇	穂高川愛護会
2	安曇野市	オオカワヂシャ	2010		5月	大王ワサビ農場西方の河	河川内	三角島ふるさとの森PJ
3	上田市	オオカワヂシャ	2008		6月	千曲川	河川敷	
4	東御市	オオブタクサ オオキンケイギク	2010		6月	市内各自治体に、区内一斉清掃等の際に自生が見られる個所での刈り取り、抜き取りを呼びかけ、区の実情に応じて実施	河川敷 道路敷	自治会（詳細な実施報告は求めているので、実施した自治会数は不明）
5	松本市	オオキンケイギク	2009		6月	女鳥羽川・田川 他	河川敷	各河川をきれいにする会
6	池田町	オオキンケイギク	2010		6～7月	町内全域	個人所有地	チラシを全戸配布
7	木島平村	オオキンケイギク	2009		6～7月	村内一円	道路路肩	村直営作業員 村民ボランティア
8	原村	オオハングソウ	2007	2010	5～8月	原山地区	道路脇	「むらづくり生涯学習推進委員会」村民の森づくり専門部会とSEVEN DAYS（市民団体）
9	飯山市	アレチウリ	2004	2010	7月		公園緑地	飯山市（県に未申告分）
10	生坂村	アレチウリ			7月	村内全域	公道脇、農地	地区住民（県に未申告分）
11	塩尻市	オオキンケイギク	2010		6～8月 (月1～2回)	木曾くらしの工芸館敷地内及び周辺道路	園地、道路脇	木曾くらしの工芸館職員 周辺住民（宮下区）（抜き取り）
12	塩尻市	オオキンケイギク	?	2009	6～8月 (月1～2回)	木曾くらしの工芸館敷地内及び周辺道路	園地、道路脇	木曾くらしの工芸館職員 周辺住民（宮下区）（刈り取り）
13	小川村	アレチウリ	2008	2009	7月	小川村大字高府	傾斜地の竹林	上野たけのこ組合（県に未申告分）
14	松川町	アレチウリ他	継続中		6～7月	河川、道路	天竜川、県河川、国・県・町道	町、区、自治会、各種団体
15	辰野町	オオハングソウ	2006	2007		辰野町伊那富	河川敷	地元区
16	箕輪町	オオキンケイギク				天竜川	河川敷	天竜川みらい会議

3.2 特定外来生物（植物）の防除推進の意向

市町村（担当課）における特定外来生物（植物）の防除推進の必要性についての意識は、図1のようになった。6つの選択肢で複数回答と自由記述としたが、「(イ) 県が率先して防除の推進を図るならば市町村としても協力する」が最も多く54%を占めた。また、「(ア) 国が計画的な防除を事業として行うべき問題であり、自治体が率先して防除を推進する責務・必要性は低い」は13%であった。



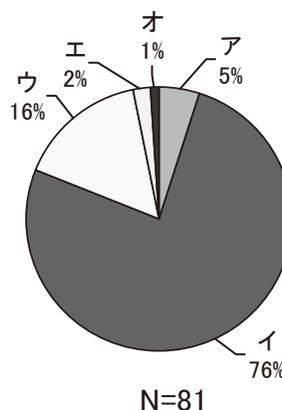
ア	国が計画的な防除を事業として行うべき問題であり、自治体が率先して防除を推進する責務、必要性は低い
イ	長野県がリーダーシップをとり、防除の推進を図るのであれば、市町村としても協力したい
ウ	県の動向に関わらず、率先して防除を進めたい
エ	特定外来生物よりも、防除の必要性、緊急性の高い有害植物の防除の方を優先的に進めたい
オ	特定外来生物に関しては植物種よりも動物種の防除の方を優先的に進めたい
カ	市町村内では外来植物で問題になっている事は無いので特に防除の必要性は感じていない
その他	(防除推進の必要性は理解できるが、業務量を勘案すると不可能)

図1 特定外来生物の防除推進の必要性に対する考え方

特定外来生物の指定種以外の植物で、防除を優先的に進めたい種として、松本市ではアメリカネナシカズラ *Cuscuta pentagona* が、安曇野市ではニセアカシア *Robinia pseudoacacia*、ビロードモウズイカ *Verbascum thapsus*、ヘラオオバコ *Plantago lanceolata*、ブタナ *Hypochaeris radicata*、ブタクサ *Ambrosia artemisiifolia*、オオブタクサ *A. trifida*、オオアワダチソウ *Solidago gigantea var. leiophylla* が、木曾町ではハルザキヤマガラシ *Barbarea vulgaris* が挙げられた。また、特定外来生物の植物種よりも防除の必要性、緊急性が高い動物種としては、佐久市では、アメリカミンク *Neovison vison*、アライグマ *Procyon lotor*、オオクチバス *Micropterus salmoides* が、下諏訪町ではオオクチバス、ブルーギル *Lepomis macrochirus* が挙げられた。

3.3 オオキンケイギク、オオハンゴンソウ等の防除推進の意向

長野県がオオキンケイギク、オオハンゴンソウ等の防除推進を行うとすれば、市町村はその防除の推進にどの程度協力できるかという設問で、5つの選択肢を設定した。オオキンケイギク、オオハンゴンソウ等の防除推進の意向は、図2のとおりであり、「(イ) 可能な範囲で協力したい」が最も多く76%を占めた。一方、「(ア) 積極的に協力したい」は5%だった。



ア	積極的に協力したい
イ	可能な範囲で協力したい
ウ	なんらかの予算的措置があるのであれば協力したい
エ	あまり協力したくない
オ	協力できない

図2 オオキンケイギク、オオハンゴンソウ等の防除推進に対する考え方

「(エ) あまり協力したくない」と「(オ) 協力できない」は計3%にとどまった。これらの協力しがたい理由としては、4つの選択肢を設定したが、「(ウ) 国が取締を特に強化しない限りは、防除の推進などせず、当面はそっとしておきたい」または「(エ) 市町村内に当該植物が生育していないので、防除の必要性がない」に二分された。

協力したくない、できない理由で、自由記述欄を設けたところ、2自治体からの記述があった。しかし、これらの自治体はいずれも、オオキンケイギク等の防除推進には、「(イ) 可能な範囲で協力したい」あるいは「(ウ) 予算的措置があれば協力したい」という立場であり、協力したくない、協力できないというわけではなかった。

3.4 特定外来生物以外の外来植物の防除事例

特定外来生物指定種以外の外来植物（ニセアカシアなどの外来樹木も含む）または、在来植物を含め

た強害雑草（繁殖力が強く駆除の困難な雑草）等について、防除が行われている事例について情報を求めたところ、表2のとおり、22の市町村から計25件の情報が得られた。ニセアカシアの防除事例が多く、11の自治体で防除が行われていた。ただし、道路や河川の支障木の管理が主目的として行われていた。セイタカアワダチソウ *Canada goldenrod* は木

島平村、大町市、白馬村、高森町、木島平村で、ハルザキヤマガラシは小諸市、須坂市、木曾町で防除事例があった。ニセアカシアおよびハルザキヤマガラシは環境省が要注外来生物に指定している。生態系被害や農林業被害の防止という観点から防除が継続されることが望ましいと考えられる。

表2 特定外来生物以外の外来植物の防除事例

id	市町村名	no	防除対象種(複数記入)	防除年代		時期	主な防除地域	防除場所の環境(河川敷、休耕地など土地利用を記入)	備考、作業団体名等
				年から	年まで				
1	南箕輪村	1	ニセアカシア	1979		9月	大泉川	河川敷	大泉川上流治水砂防促進期成同盟会
2	南箕輪村	2	ニセアカシア		2010	7月	大泉地区	河川近くの山林	大泉財産区
3	大町市	1	セイタカアワダチソウ			7~12月	大町市内	河川敷、休耕地	大町市、自治会他
4	村川村	1	ニセアカシア	2005		3月	北アルプスパノラマロード	堤防道路沿	松川村
5	山形村	1	ニセアカシア		2008	6月	唐澤川のそばのコミュニティーセンター付近	河川敷	地区環境整備委員会
6	安曇野市	1	ニセアカシア	以前から		年中	市内	道路傍、河川土手	支障木の除去(地域支援課)
7	上田市	1	ニセアカシア	2009		7月	千曲川	河川敷	国土交通省
8	白馬村	1	セイタカアワダチソウ	2000頃		除雪期以外	村内全域	新設道路・河川沿い	セイタカアワダチソウを考える会
9	小諸市	1	ハルザキヤマガラシ			5~6月	高峰高原	観光地(スキー場)	浅間・高峰観光協議会
10	高森町	1	セイタカアワダチソウ	1980	2010	7~8月	町内全域	荒地	各自治会(個人)
11	東御市	1	ツキミソウ ヒメジョオン アカツメクサ タンポポ ビロードモウズイカ	不明		7~9月	湯の丸高原	ゲレンデほか	湯の丸区(レンゲツツジ群落の保全)
12	駒ヶ根市	1	ニセアカシア		2010	2月	天竜川	河川敷	NPO法人 天竜川ゆめ会議
13	松本市	1	ニセアカシア				奈良井川・鎖川 他	河川敷	県及び各河川をきれいにする
14	須坂市	1	ハルザキヤマガラシ	2010		6月	峰の原高原	幹線道路沿い	峰の原高原(自治会)
15	木島平村	1	ハルザキヤマガラシ	2009		5月	村内一円	道路路肩	村直営作業員 村民ボランティア
16	木島平村	2	セイタカアワダチソウ	2009		9~10月	村内一円	河川堤防	村直営作業員 村民ボランティア
17	朝日村	1	ニセアカシア	2009	2009	4月、8月	鎖川 松ノ木橋周辺・朝日橋周辺	河川敷	鎖川愛護会
18	朝日村	2	ニセアカシア	2010	2010	4月、8月	鎖川 針尾橋周辺・朝日橋周辺	河川敷	鎖川愛護会
19	長野市	1	ニセアカシア	2007	2010	6月	篠ノ井塩崎 篠ノ井140号線(約100本)	道路法面	長野市・道路及び水路の施設管理維持のために行うもので、植物の種別を特定しての作業ではない。年に一度市道の安全通行に支障があるため、ニセアカシアを伐採するもの
20	高山村	1	ニセアカシア	2008	2008	11月	(主) 地方道豊野南志賀公園泉	道路脇	長野森林組合
21	塩尻市	1	ヒメジョオン	1995	2010	7月	高ボッチ高原	高原	塩尻市自然保護ボランティア、市民※「みんなで守ろう高ボッチ高原の自然」事業として毎年海の日に実施
22	木曾町	1	ハルザキヤマガラシ	2010		5~6月	開田高原地域	遊休荒地 休耕地	個人
23	山ノ内町	1	ニセアカシア	2008		5月	渋温泉	急傾斜工事地	渋湯組
24	山ノ内町	2	ニセアカシア	2009		11月	夜間瀬川	河川区域	山ノ内町
25	佐久穂町	1	コカナダモ	2009		10月	佐久穂町大字畑	ため池	佐口区

表3 外来植物の防除施策等に関する市町村からの意見・要望

市町村	記 述
東信地区 市町村	オオキンケイギクは特定外来生物に指定されているが、個人が庭や花壇などで栽培している事例も多いため、防除するには難しい面もあると思う。理由についての周知が必要。
	これらの植物について、知らない人がほとんどだと思うので、回覧ではなく全戸配布のカラーのチラシを配布するなどしてほしい。配布は当方で行ないます。
	防除活動は、自治会等が実施する地域の環境美化活動の一環として実施することが多いので、その活動範囲外に繁茂するものの防除体制が確立され難い。オオバクサについては私有地に繁茂しているケースが多く、地権者等へ注意喚起の後は自発的取り組みを期待するしかない。不在地主の場合はさらに困難。
	県下一斉調査として、市町村協力のもと主要河川等調査地点を設け、外来特定生物(植物)生育状況把握を実施し、生息マップを作成する。数年に一度実施し、経年変化を把握するとともに、市町村への注意喚起や防除対策の資料とする。(要望)
北信地区 市町村	県の管理下である1級河川敷内及び国・県道路敷の外来植物等における把握と対応はどうか。「市町村等と連携を図り・・・」は結構ですが、町としては町有財産に関しては町として対応、地元区においては(区)住民対応している状況があります。1級河川、国県道路敷については原則として管理責任者としての責務をしっかり認識してもらいたい。
	現在、県の緊急雇用創出事業に基づき、アレチウリ駆除事業を実施しているが、このような予算措置がないと、外来植物防除事業はなかなか実施しづらい。
	市民を防除に向かわせる「動機」が十分に形成できない。河川敷では河川が氾濫すると新しい種が流されてきて芽を出す(外的要因により再発)。山中の軌道敷周辺などにアレチウリが広がるなど、これまでなかった地区への拡大がみられる。生物多様性に関する理解が深まっていないので、市民の多くは現状に問題を感じていない。
	自主的な防除では、アレチウリ同様に拡大してしまう。取り締まり基準の強化と防除を国が計画的に事業として行うべきで、広報、チラシの配布だけでは、なかなか行動まで移せないと思います。
中信地区 市町村	外来植物の生育実態や分布状況について、把握しておらず具体的な対応策が、見いだせていない。緊急雇用創出事業交付金を活用して等の助言もいただいているが、当該生育実態等の調査を県として実施しただき、各市町村へ具体的に情報提供いただければ、駆除作業について、元気づくり支援金等の活用を含め検討していきたい。
	県内の被害等がわかるデータ等があれば情報の共有をお願いしたい。
	オオキンケイギクが、国県道に沿って広がってきているように見受けられるが、似た花が多くて、見なれている者でなければ見分けがつきづらいので、判り易い案内のチラシや広報用の原稿などを配布してほしい。
	市内各所において、オオハンゴンソウ、アレチウリの繁殖が確認されています。駆除について広報紙で周知したいので、正しい防除の方法などの情報の提供をお願いします。
南信地区 市町村	伐根までしなければならぬことから作業が大変であるので、薬剤散布等省力化できる方法、薬剤の種類を広報いただきたい。全住民に関心を持ってもらう効果的な手法がないため、住民の一部のみの活動となっている。
	当町における生息実態が把握できておらず、ある程度の知識と時間がないと実態がつかめないと考えます。現状がどのような状況であるのかが、解らない状況においてはなんとも言えないのが実情です。
	当町では緊急雇用創出事業によりシルバー人材センターへ「アレチウリ」の駆除を委託し実施している。それ以外の特定外来生物のオオキンケイギク、オオハンゴンソウの存在も確認されているが、具体的な防除までは至っていない。特定外来生物でない、要注意外来生物のハルザキヤマガラシの繁殖が本年爆発的に増加しており、今後、防除について検討をしていく必要を感じている。
	オオキンケイギク等に関しては、きれいな花を咲かせるため、駆除に消極的な市民も多く、カラー刷りの印刷物等による駆除の必要性の周知が必要となり、また市民のボランティア作業への援助も必要となるため、チラシの配布や河川愛護活動報償費の増額による支援を要望します。ニセアカシアについては、伐採後の株に防除薬剤を散布し次年度の育成を停める方法もあると聞いているが、使用薬剤名や濃度、効果、また他への影響等につき、具体的な指針や、又は危険性の情報提供をお願いしたい。
南信地区 市町村	可能な範囲で協力はしたいが、まずは市内の生育状況の把握が必要と考えます。
	いろいろ頑張りたいところではありますが、人員配置的に厳しいものがあります。
	セイタカアワダチソウについては防除が必要と思われるが、大きな問題にはなっていない。調査対象となっている外来植物についての認識が甘い事もあるが、村内での繁殖地域は確認できていない。専門家による各市町村での繁殖区域の調査を県で実施して頂ければ幸いです。
	今年初めて県の出前講座の中の特定外来生物(アレチウリ)の駆除について実施し、町内の衛生リーダーの方に参加してもらい、駆除の必要性等研修しました。今後も、駆除は国、県、町だけでは難しいと思います。必要性を感じても実際駆除をしなければあつという間に生態系が脅かされる状態となります。今回の出前講座が生かされるよう、地区への働きかけを実施していきたいと思っています。1級河川、鉄道敷等に繁殖が多く見られます。

3.5 外来植物の防除の施策等に関する意見・要望

このアンケート調査や、外来植物防除の施策等に関して、意見・要望を自由記述で求めたところ、20の市町村から意見・要望が出された(表3)。

防除推進のための広報媒体や技術情報の提供を求める意見は計6件あった。これらのなかには、除草剤を用いた効率的な外来植物の防除技術の広報、情報提供を求める要望も2件挙がっていた。

4. おわりに

今回のアンケート調査では、限られた設問からではあるが、外来植物の防除という施策に対して、各自治体の意向をある程度明らかにすることができた。これらの情報をもとに、今後、公的機関において、総合的・計画的な外来植物の防除の実施が望まれ、そのような防除計画が実施される場合は、研究所としても防除効果のモニタリング調査を行い、より効果的な防除に資することを目指したい。また、本県で2011年度に生物多様性地域戦略を策定する予定であるが、今回の情報が活用されることを期待したい。なお、多くの自治体の担当課にはアンケート調査にご協力いただきました。ありがとうございました。

文 献

- 1) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 <http://www.env.go.jp/nature/intro/> (2011年1月確認)
- 2) 前河正昭(2008) 特定外来生物アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャの長野県内における分布概況。長野県環境保全研究所研究報告 4:61-66.
- 3) 前河正昭・永井茂富(2010) 特定外来生物オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ヤエザキオオハンゴンソウの分布・生育実態 - 長野県北信地方の事例 - 長野県環境保全研究所研究報告 6:61-66.
- 4) 特定外来生物被害防止基本方針(修正版) <http://www.asahi-net.or.jp/~zb4h-kskr/alien-s/kihon-hoshin.html> (2011年1月確認)
- 5) 生物多様性基本法 <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H20/H20HO058.html> (2011年1月確認)

Questionnaire surveys on concepts of removal of exotic invasive plants including specific alien species in municipalities of Nagano Prefecture

Masa-aki MAEKAWA

*Nagano Environmental Conservation Research Institute, Natural Environment Division,
2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan*

付表1 外来植物の防除に関する意向アンケート調査票

付表 外来植物の防除に関する実態および意向調査 回答シート

長野県環境保全研究所自然環境部行き(担当 前河) kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp
 FAX:026-239-2929 電話:026-239-1031

市町村名		支所名	
担当課		電話番号	
ご担当者様名		電子メール	

1 外来生物法における外来植物の防除への対応策について

(1) 貴市町村内で、既に特定外来生物の植物の指定種について防除活動が行われている事例はありますか?あてはまるものに○をつけてください。(ただし、アレチウリのみの防除については県内で既に常態化しているため回答不要です)

なお、指定種の詳細については、環境省ホームページ等をごらんください
<http://www.env.go.jp/nature/intro/4document/manual/shokubutsu.pdf>

ア		防除活動が行われている事例がある
イ		防除活動が行われていない事例はない
ウ		防除活動が行われている事例についてはわからない

(2) アに ○ の場合、可能な範囲でその詳細をご記入ください。

なお、長野県(水大気環境課や各地方事務所環境課)に既に申告済みのアレチウリの防除活動については、記入は不要です。ただし、その防除活動で、他の特定外来生物の指定種も併せて防除実績があるような場合は、わかる範囲でなるべく記入をお願いします。

no	防除対象種(複数記入)	防除年代		時期	主な防除地域	防除場所の環境(河川敷、休耕地など土地利用を記入)	備考、作業団体名等
		年から	年まで	月頃			
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							

(3) 貴市町村では、特定外来生物のうちの植物種の防除について、どの程度の必要性を感じていますか？あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可) また、()には動植物の種名を記入してください。選択肢であてはまるものがなければ、その必要性や、貴課の考え方等について自由に記述してください

ア		特定外来生物の防除は、国が計画的な防除を事業として行うべき問題であり、自治体が率先して防除を推進する責務、必要性は低い
イ		県土の生態系保全や生物多様性の保全に係る問題であるため、長野県がリーダーシップをとり、防除の推進を図るといのであれば、市町村としても協力したい
ウ		地域の生態系保全や生物多様性の保全に係る問題であり、県の動向に関わらず、率先して防除を進めたい
エ		特定外来生物の指定種以外にも、防除の必要性、緊急性の高い有害植物が蔓延しているため、むしろそれらの防除の方を優先的に進めたい。その植物種は

() などです

オ		特定外来生物に関しては植物種よりも動物種の防除の必要性、緊急性が高いので、むしろそれらの防除の方を優先的に進めたい。その動物種は
---	--	--

() などです

カ		当市町村では、外来植物で問題になっている事は無いので特に防除の必要性は感じていない
---	--	---

その他 (自由記述)

2 オオキンケイギク、オオハンゴンソウ等の防除の推進について

オオキンケイギク、オオハンゴンソウおよびヤエザキオオハンゴンソウ はきれいな

花を咲かせる園芸植物で、過去にワイルドフラワー緑化にも用いられています。しかし、これらは現在、特定外来生物指定種であり、河川敷内（主にオオキンケイギク）や森林の林床や湿原（主にオオハンゴンソウ）に分布を拡げる能力があるため、在来の生態系への影響が危惧されています。そのため、県環境保全研究所としましては、県地方事務所や市町村等と連携をはかり、オオキンケイギク、オオハンゴンソウおよびヤエザキオオハンゴンソウの県内での防除の推進を図りたいと考えています。

たとえば手順としては以下のようなものを考えています。

- 地方事務所単位で、環境関係の担当者会議などを通じ、市町村に防除推進を依頼
 - 市町村から、研究所が作成した防除推進用のチラシを自治会単位の回覧に付していただき、自治会主催の草刈活動や清掃活動の時に、これらの特定外来生物指定種の防除（除草作業）が行えるようにする。
- (1) そこでおたずねします。貴市町村では、これらの防除の推進にどの程度ご協力いただけますか？

ア	積極的に協力したい
イ	可能な範囲で協力したい
ウ	なんらかの予算的措置があるのであれば協力したい
エ	あまり協力したくない
オ	協力できない

(2) 先の設問で、エ、オを選択した方へおたずねします。協力したくない、できない理由をお答えください。選択肢の中に適切な理由が該当しない場合は、理由を自由に記述してください

ア	特定外来生物の防除は、国が計画的な防除を事業として行うべき問題であり、地方自治体として率先して防除する責務、必要性は低い
イ	広報のちらし等を自治会に配布するためには、前年度からの計画が必要であり急には対応できない。来年度であれば対応可能である
ウ	きれいな花でもあり愛着を持つ市民も多い。国が取締を特に強化しない限りは、防除の推進などせず、当面はそっとしておきたい。国の取締基準の動向を伺いながら柔軟に対応したい
エ	当市町村内には、オオキンケイギク、オオハンゴンソウおよびヤエザキオオハンゴンソウは生育していないので、現在のところ、防除の必要性そのものが無い

その他の理由（自由記述）

3 外来植物や強害雑草等の防除対策全般について

(1) 貴市町村内で、特定外来生物指定種以外の外来植物（ニセアカシアなどの外来樹木も含む）または、在来植物を含めた強害雑草（繁殖力が強く駆除の困難な雑草）等について、防除が行われている事例がある場合、その詳細を可能な範囲で教えてください。貴課内で把握されていない場合は、農政、林務、土木等のセクションにもご照会いただければ幸いです。
 （過去の類似のアンケート調査では、セイタカアワダチソウ、ネナシカズラなどの防除事例があることがわかっています。）

no	防除対象種（複数記入）	防除年代		時期	主な防除地域	防除場所の環境（河川敷、休耕地など土地利用を記入）	備考、作業団体名等
		年から	年まで	月頃			
1							
2							
3							
4							
5							

(2) この意向調査や、外来植物防除の施策等に関して、特にご意見や、ご要望などがありましたら記入をお願いします。

ご協力ありがとうございました。